



先月 30 日には学校環境整備作業に御協力くださり、ありがとうございました。
作業後、「今日お力添えいただいたことは、2学期に、子どもたちに必ず伝えます。」とお約束しておりましたので、1日の始業式で「学校の見えない所、見えない所できれいにしてくれた人の気持ちが見える人になってください。」と話しました。



【8/30の本校ブログ】

始業式の後、1年生の教室で、担任の先生が「校長先生はどんな話をされましたか？」と尋ねたそうです。すると、何人かの子どもが「心で見なくちゃ、肝心なことは目に見えない」と答えたと聞きました。

想像力

さて、新学期になり、子どもたちが頑張った夏休みの宿題を興味深く見ていたのですが、思わず笑顔になったり、感心させられたりすることが何度もありました。今日、紹介するのは、そんな宿題の中の一つです。
『宇宙でウンチ』という本を読んだ4年生 A さんの読書感想文です。
A さんはまず次のような感想をもちました。

ぼくたちは毎日、ごはんを食べてトイレに行って、用がすんだら水を流せば終わりです。でも、重力がない宇宙では、そうはいきません。ちょっと懂れていた宇宙飛行士だけれど、ぼくはトイレのない宇宙船には乗りたくないなあと思いました。

そして、A さんは、宇宙でトイレを使うためには事前の訓練が必要で、1回につき45分かかるということを知り、こう書いています。

ぼくだったらげんかいまでがまんして、トイレの回数をできるだけへらすと思います。



【A. ボンドー＝ストーン、C. ホワイト
『宇宙でウンチ』あすなろ書房、2025】

この気持ちも、よく分かります。宇宙でなくてもウンチは面倒くさくて、できるだけまとめて出したくなるものです。

続いて A さんの視点は、宇宙から韓国へと移ります。夏休みに訪れた韓国では、トイレトーパーを便器に流さず、ごみ箱に入れることを知ります。

その時ぼくは「当たり前はどこでも同じじゃないんだ。」と気づきました。

さらに、A さんの目は、だんだんと身近なところを見つめていきます。この読書感想文の結びの部分です。

この間ニュースで見た熊本のひさい地では、水が出なくて、給水所までくみに行っていました。でも一度に運べるバケツ2はいいの水は、トイレを1回流したらなくなってしまいます。バケツ1はいいの水も大切に使っていました。ひさい地の人たちも、宇宙での生活と同じように、ものを大切にしがなばっています。ぼくも、あるのが当たり前だと思わないで、物を大切に生活をして、その当たり前の生活ができることにかんしゃしたいです。

A さんは、読書を通して、見たことのない宇宙船での生活や、被災地の人々の暮らしを想像し、まだ見ぬ自分のこれからを考えました。肝心なことは目に見えません。でも、見えないからこそ想像をふくらませることができます。もしかすると、その想像することこそが「肝心なこと」なのかもしれません。